校長からのメッセージ　　令和２年４月１８日

大森博幸

校長室にいると、心地よい鶯（うぐいす）の声が、例年以上に聞こえてきます。
校内に生徒の明るい声が響かなくなって、５０日近く経ちました。
４／１１にメッセージを出して１週間、コロナウイルスの勢力は更に増し、全国に「緊急事態宣言」が発出されるところまできました。
岡山県内においても、県立高校は全校、小中学校の多くも５／６までの休校を余儀なくされる状況になりました。

岡山白陵の生徒諸君、毎日、手洗い、うがい、消毒を実行していますか。マスクの着用を怠ってはないですか。マスクが不足して困っている人は、自分でマスクを手作りする時間もあるはずですから、是非、家族の方々とマスクを作ってもらいたいと思います。

今、世の中では、感染防止と同時に、休業要請、外出自粛等に伴う収入減への補償、現金給付等が大きな問題になっています。全てを矛盾なく解決することは難しく、コロナウイルスの絶滅以外に方法がないのでは？と思ったりもします。早期に特効薬あるいはワクチンの開発が待たれるところです。

本校卒業生には医療従事者が多数います。また、保護者にもたくさんの病院関係者がいます。自分のことで精一杯の状況の中で、医療関係の方々は寸暇を惜しんで、このコロナウイルスに立ち向かっています。今、誰が、どこで、どんな形で、貢献しているかを具体的に知ることはできませんが、岡山白陵関係者（卒業生・保護者）が今「自分のためではなく人のために」最前線で感染の危険を伴いながら働いています。
前回のメッセージでも伝えましたが、今はじっとしているしかありません。学校から出された課題に集中して取り組んでください。そして、先輩たち、お父さん、お母さん、友達のお父さん、お母さん・・・いろいろな人たちのことを想像してください。
この何ともいえないもやもやした毎日は、耐えること、考えること、想像することの大切さを教えてくれます。

今、自分に何ができるかを問い続け、じっとしていてもできることを見つけていってください。
生徒、保護者、卒業生、卒業生の保護者の皆様の健康・安全を心から祈念しています。